

千葉大学法政経学部 同窓会報

第27号

2018年10月1日発行



目次

同窓会員の皆様へお願い	1
同窓会をよろしくお願ひします。	2
コラム「がんの家系に生まれて～それでもしぶとく生きています」 ..	3・4
総合政策学科1期生 同窓会	4
クローズアップキャリア「還暦の税務職員」	5・6
卒業生エッセイ	6・7
夢を追って～OB仕事物語り～「事務所紹介～街の長老を目指して～」	7・8
多方面で活躍される卒業生	9・10
同窓の情報を楽しみにしています。	10
同窓会總會のご案内	11
編集後記	11

発行

千葉大学法政経学部同窓会

〒260-0013

千葉市中央区中央1-10-10

シャンポール第2千葉中央 203号

吉永不動産鑑定事務所内

FAX 043-221-7048

ホームページアドレス

<http://culpe-ob.com/>

同窓会員の皆様へお願い

千葉大学法政経学部同窓会の活動につきましては、日頃よりご協力・ご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

現在の法政経学部同窓会は、平成10年に千葉大学法経学部と卒業生とが「共通の学舎に多感な青春をおくった者が集い、親睦を深め、母校の発展に寄与しようという理念のもとに連携して再発足し、以来、学部同窓会として、総会の開催、同窓会報の発行、ホームページの開設、卒業生の地方での仕事ぶり、などの同窓生の活動をご紹介すると共に、校友会（千葉大学全学部統括の同窓会）への分担金支援、法科大学院への支援、学生の就職相談、卒業生への記念品の配布等々の活動を行ってきました。

しかしながら、数年前から大学側より、大学との共同管理体制をやめ、同窓会は卒業生だけの単独での管理運営体制とするように申し入れがありました。

その後、大学側と話し合いを

行ってまいりましたが、平成30年4月からは、同窓会運営については、同窓会費の納入も含め、全て同窓会で行う事になりました。

このことは、法政経学部同窓会が平成10年に再発足して、大学事業の一端を担う形で共同・協力のもと、維持されてきたことを考えると、同窓会の存続の根幹にも係わる問題であり、今後の運営に当たっても緊急の課題となっております。

さらに、大学側より、従前の新入生の入学時の同窓会加入や会費納入は、同窓会の運営管理としては適切でないとの判断が示されました。

この会費納入に係る点は、大学側においても今後の同窓会運営にとって大きな危機を孕む問題であるとの理解はありますが、大学側としては、やむを得えないとの結論であります。

併せて、法政経学部校舎内に、好意として貸してもらっていた同窓会室についても平成30年9月末で退去するよう申し渡されまし

た。

このため、今後は外部に同窓会室を借りる必要も生じております。

このように、同窓会の存立に係る問題を受けて、理事会一同として、今までは違つて、会員の皆様方には同窓会を維持するため、会費納入のご支援ご協力を深くお願いする次第となりました。

同窓生の皆様方の会費納入が、今後の同窓会活動を定める事となり、会報発行やホームページの維持には必要不可欠となっております。

ご事情をご理解いただき会費の納入に温かいご支援・ご協力をお願いする次第であります。

なお、会費は下記口座にお振り込み下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様方、よろしくようお願い申し上げます。

同窓会役員一同



理事	副会長	会長									
石橋	井出	萩原	渡邊	八代	片山	飯笹伸一郎	吉野	鈴木	鈴木	渡部	吉永
秀樹	浩司	博	誠吾	伸久	隆明	(S47年度卒)	聡	幸男	靖征	(S43年度卒)	英明
(S56年度卒)	(S55年度卒)	(S53年度卒)	(S53年度卒)	(S48年度卒)	(S47年度卒)	(S47年度卒)	(S44年度卒)	(S43年度卒)	(S43年度卒)	(S43年度卒)	(S39年度卒)

会費お振り込み先

年会費3,000円の振込を下記口座をお願いします。

銀行名：千葉銀行 松が丘支店 (普通) 3511417

口座名：千葉大学法政経学部同窓会 会計 飯笹伸一郎

卒業年次・氏名を必ず記入し、2019年3月31日(日)までにお振込みください。

※振込手数料は同窓会負担とさせていただきます。

合わせて寄付も受け付けております。

同窓会を
よろしく
お願いします。



「1980年
千葉大学4年生時」

井出 浩司

(昭和55年卒)

2010年3月、急性心筋梗塞で心臓の1/3を失うとともに15年間、起業し心血を注いだ会社社が崩壊しました。自覚症状とか全くありませんでしたが、それなりに体が痛んでいたんだと思います。僕の冠状動脈にとどめを刺したのは「介護」とか何も考えなしに母を引き取っての半年だと思えます。前年、進行癌で認知症の母を介護できなくなった父から引き取りました。「看護師さんや会社で雇っちゃえばいいんじゃない」くらいの気持ちでした。ところが母の認知症は「寂しい」病で一人ではいられません。

僕が視界から消えると「浩司、浩司」と探し続けます。

付け焼刃で施設に預けても、「浩司、浩司」と一晩中いっただ、手足拘束&マスク、可哀そうでもとも施設に入れられません。

僕の後をついて回る、24時間トイレも母と一緒に、どうしても避けられない打ち合わせは社員と一緒に、税務署も母同伴、といった状態でした。ちなみに税務署は認知症の母抱えて法人税申告に来た僕に実に親切だったです。

そうなると先に倒れるのは介護している方で、一気に一番太い冠状動脈が狭窄し手術、入院。結局父と兄が母を引き受けてくれましたが、要領がつかめなかったんだと思います。

施設が簡単には決まりません。父の進行癌が急速に悪化し最初に父、さらに母も後を追うように亡くなりました。ほぼ1年の間で、「病気↓働けない↓会社崩壊」&「両親死亡して天涯孤独気分(兄弟います)」。

茫然自失の状態で、リハビリの場所にいいのでは、と思っ行ったのが学び舎の千葉大学です。

行ってみると法政経学部には同窓会があり、教官だった松田先生もおられ、30年前の卒業生の僕の

事も覚えてくれていました。

同窓の先輩とも会話を聞いてもらえ「大変だったね」と言われると「もう一度前に進みたい」意欲がわいてきました。

僕には母校があるんだな、という癒しは当時の僕には絶大なものでした。リハビリに数回大学に行くうちに、同窓会の運営のお手伝いをするようになりました。同窓会への愛情からではなく、「何をやっていいかわからない」からだったと思います。

起業した時は「NECからの業務プログラム受託」の1点にすべてを集中すればよかったですが、会社も崩壊し、何をやらばいいかわからない時期でした。

心が折れたとき、スツと入り込んでくるのが病気と宗教と同窓会で。僕は同窓会で本当によかった。

今思うと、心筋梗塞を発症する前2年が自分のMAXだったような気がします。微細企業でしたが、売上ではなく粗利の額が自分の会社の追い求めるもの、多少金がかかってても社員は派遣社員で少数等自分のビジョンと客筋が一致していました。

一番の幸運は、母を引き取る前に派遣社員の会社に大きな仕事は外注しておいたことでした。

「1年もたてば状況変わるだろう」位の感じでしたが、1年だけ、と客も派遣社員の会社も納得してくれて、自分でプログラムはガリガリ書かないで済む状況になってました。「あの時外注してなければ」と思うと今でも冷や汗が出てきます。

僕は同窓会の理事とかお手伝いをやるキャラではありません。千葉大学伊東光晴先生のゼミは仲良しで、いまだに年一回91歳になられた先生を囲んで昼食会をします。「ヨッ、理事」といじられます。

今、体も回復し、人生最後にこれに賭ける、具体的なものがあります。現在同窓会の実態をなしている理事の方々は2000年同窓会発足時からの方々がほとんどです。資金的にもピンチとなつていきます。同窓会の資金の経緯・内容は前のページにある理事の方々連名の「同窓会員の皆様へのお願い」を参照ください。

世代交代する時だと思えます。僕も、この6年間運営に携わり、自分の会社の復興に専念したいです。同窓会への恩返しはこの6年間で十分したつもりです。

同窓の皆さんと少しでも会ってお話がしたいです。11月11日千葉大学けやき会館でお待ちしております。



コラム

NOTE BOOK

がんの家系に生まれて、
それでもしんどく生きています

(株) 千葉日報社取締役会長

萩原 博

(昭和53年卒)

久しぶりの会報発行ということ
で、なぜか私に原稿のおはちが
回ってきました。しかも、「がん
の闘病記を書いて」という事務局
からの申し出。どのくらい皆さん
の参考になるかわかりませんが、
がんの認知から手術、予後、そし
て現在までをお話いたします。
なお、尾籠な話も出てきますの
で、食事の前後には読まないで下
さい。

皆さんも会社などで定期的に健
康診断を受けていると思います。
私もそうでした。中でも胃がん検
診はメーンですよ。白いドロツ
としたバリウムを一气飲み。X線
を照射しながら、グルグル体を回
されるといふやつ。そして生活の
洋風化で増えているという大腸が
んは便の検査で調べますね。私も
毎年秋、きちんと健診は受けてい
ました。

その結果といえば、皆さんの多
くと同じ。毎日のような宴会、そ
して運動不足から悪玉コレステ
ロール、尿酸値は健康値を超える
ことは常態。いわゆる生活習慣病
ですね。それとお決まりは便潜血
でした。便潜血は便の中に血液が
混じっているということで、大腸
がんの要再検査の指示が2、3年
の間、出続けておりました。
しかし、人間、50年以上も生き
ていると、肛門にも病魔が潜んで
きます。私の場合は「切れ痔」。
出血の原因は痔と勝手に診断を
下し、放っておいたのでした。
そして、運命の日を迎えます。
2009年11月。肛門辺りに便意
を感じて、急いでトイレに。「ブ
リツ」という音とともに排出され
たのが、今まで見たことのない
コールドタル状のネバネバ。しか
も、そこはかとなく漂う血の臭
い。いわゆる下血でした。瞬間、
「こりゃ、ヤバイ」。年末に肛門
からカメラを入れて大腸を内視鏡
で検査。2010年の新春早々、
直腸がん、しかも腫瘍もかなり大

きいと、こともなく検査医師から
告げられました。映像を見ました
が、腫瘍から血がドクドクといっ
た感じで流れてました。
「とうとう来るべき時が来た
か」。私は特段のショックを受け
ることもなく、自らの運命を受け
入れたのでした。実は、ともに78
歳で死亡した両親の死因は、父が
胆のうがん、母が大腸がん。萩原
家ががんの家系であることを確信
しました。「きつと来る、きつと
来る」、井戸から這い上がる貞子
のように、私にもいつか、がんが
来る。そして死ぬ。そんな思い
で、毎年の健診を受けていたのも
事実です。
一方、帰宅して妻に報告したら
どんな反応をみせるのか。愛する
夫の一大事、泣き叫んで、「死な
ないで」などと袖にすがることか。
実は楽しみにしていたのに、妻は
いたって冷静。「手術すれば大丈
夫」。その一言で終わりました。
4月8日、千葉市中央区椿森に
ある国立千葉医療センターに入
院。12日には手術しました。この
国立千葉医療センターは老朽化が
ひどく、内部は暗くて、病棟の間
のスペースにはぺんぺん草が生え
ている。お世辞にもきれいとは言
いがたい。実は新病棟を建設中

で、7月には開院の予定でした。
「こんなところで死ぬのはいや
だ」。がん死を受け入れたもの
の、「もう少しきれいな病院で死
にたい」。そんな思いを知ってか
知らずか、手術室に移動した私の
背骨に医師が麻酔薬をさくさくと
注入。一瞬で意識が飛びました。
だれかに頬をピタピタ叩かれて目
が覚めると、手術は終了。再び意
識を失いました。
直腸を3分の2、S字結腸もほ
どほどに摘出したとのこと。胃の
上辺りから、男性のシンボルであ
るXXXの上まで一直線に切り開
かれ、傷は大きめのホッチキスの
針で止められていました。しか
し、手術は成功。もう少し放置し
ていたら、がん細胞が腸壁を食い
破り、血管やリンパ節に侵入、転
移していたとのこと。自らの悪運
の強さに感謝しました。
24日に退院。本当はもう2・3
日は入院の予定でしたが、食事の
まずさに耐えられず、無理を言っ
て出てしまいました。だが、悪運
もここまです。退院してから、昼夜
関係なしに、突発的な下痢に襲わ
れる毎日で、家の中でもトイレが
間に合わず、たまにズボンを汚す
ことも。何とも情けないような、
恥ずかしいような、複雑な心境で

した。初めて大人用の紙パンツをはいて出社しましたが、何しろ外に出るのが不安。特に公共交通機関が鬼門であり、おなかの調子が悪化しないことを祈るだけ。もう社会復帰できないのではーと思うこと、しきりでした。

あれから8年。人間の体はうまく出来ている。再発はなく、突発的な下痢やおなかの不具合も、ほどほどに折り合っているようになりました。しかし、不安は残ります。今でもバス旅行には参加しません。トイレが遠い場所には行きません。日本はほんとにありがたい。コンビニがたくさんある。終日車で移動する仕事ではコンビニトイレが命の綱です。

当年とって64歳。7月末の株主総会で社長を退任し、会長に就任しました。社長の激務、トイレの心配よ、さようなら。命は助かったが、いずれ「きつと来る」。若い皆さん。大きな病気には予期しない不都合が付きもの。私の教訓です。何と言っても早期発見、小さなうちに処置すれば苦勞はしなくて済む。健康診断を定期的に受け、その結果には素直に従うこと。わかりましたね。

総合政策学科1期生 同窓会

2018年9月15日(土)、法経学部(現、法政経学部)総合政策学科1期生の同窓会を、千葉大学西千葉キャンパスの大学生協食堂にて開催し、16名が参加しました。

私たちは、1999年に入学しましたが、新設学科のため先輩がいないこともあってか、学科の懇親会をよく行っていました。卒業してから約15年の時が経ち、久しぶりに行った学科の懇親会となりました。

同窓会では、お互いの近況報告をしました。企業に就職した者、公務員となった者、起業した者、アーティストとして輝き続ける者など、同じ大学生だった仲間がそれぞれの道を歩み、活躍している姿を頼もしく感じました。

社会人となり、学生時代とは変わってしまったものもありますが、法経学部で同じ時間を過ごした者同士、会えば当時と変わらない心の距離感があります。また、今回の会場となった大学生協食堂も、そんな当時を思い出させてくれる場所でした。

懐かしい話や、近況の話に花を咲かせていると、時が経つのも忘れてしまう程で、その流れのままに2次会、3次会と行いました。

私自身は3次会にて撃沈してしまい、仲間の家に收容される羽目になったものの、次の日は、泊まりがけで遠方から参加した仲間と、昼から迎え酒をし、別れを惜しみました。お陰で家族から白い目で見られる羽目になりましたが、そんな自分の環境の変化も含め、成長した私たちと、変わらない私たちを嬉しく思う同窓会でした。





クローズアップ キャリア

還暦の税務職員

東京国税局

佐野文彦

(平成56年卒)

千葉大を卒業して就職したのは
国税の職場であった。

私は昭和56年度の国税専門官採
用試験に合格して税務職員とな

り、現在、東京国税局 総務部

税務相談室で納税者からの電話相

談に対応する主任税務相談官とし

て勤務しており、8月の誕生日に

満60歳を迎えたため平成31年7月

には定年となる。

当時を振り返ると、私の記憶に

間違えがなければ、大学の就職指

導で国税専門官は仕事が厳しいの

で勧められなかったと記憶してい

る。

最近では、先輩たちが学部から毎

年4〜5人は国税専門官として採

用されていると、税務相談室にい

る先輩から教えてもらった次第で

あるが、私達の時代には人気のな

いこの職場に飛び込んでくる千葉

大生はほとんどいなかったはずで

ある。

就職先を決めるにあたり、へそ
曲がりの私は、就職の時点では活

況を呈している業界であっても、

後々不況業種に変遷するという自

分勝手な考えと、選べる就職先が

少なかったことから、国税の職場

に身を置くことに決めたのであ

る。

半年間の新卒者の研修を終え、

配属されたのは文京区にある小石

川税務署である。担当部署は個人

を対象とする所得税担当で、法人

を対象とする法人税担当とは異な

り、納税者自身の私生活やお金に

直接係わる、実にどろどろとし

た、ある意味で身近な税金を扱う

担当であった。

配属早々、アポなしで、記帳状

況や申告内容を確認する税務調査

に納税者宅へ臨場した際、当時は

学生が抜けていない顔つきだった

のであろう、納税者の奥さんに身

分証明証を提示したものの、「最近

の税務署では、学生アルバイトに

税務調査をやらせているの？」と

職員であることを疑われ、上司に

確認電話をされる始末であった。

そういえば、若い頃は先輩と飲

みに行っても、会計伝票が私のと

ころに置かれることはなかったと

記憶している。

さて、私が税務職員として経験

した所得税担当の具体的な仕事と

はどんなことかというところ、一つは

個人の納税者の申告内容について

税務調査を行うこと、もう一つは

確定申告における相談・書類の整

理処理を行うことであった。

税務調査では主に所得税調査に

従事したが、2年間だけ法人税調

査を経験したほか、若い時には大

規模な個人事業者の税務調査を行

う国税局の資料調査課の仕事も経

験した。

資料調査課の調査は、強制調査

である査察調査と対比され、任意

調査でありながら調査対象者に対

する綿密な準備を行って実施する

税務調査で、税務署における調査

とは異なり大口・悪質な納税者を

ターゲットとしていた。

そんな資料調査課に勤務してい

た時に、NHKのドキュメンタ

リーの取材が入り、夜間に店舗の

状況や納税者の行動を確認してい

る職員の中に自分が写っていたこ

とから、毎日夜遅く酔っ払って帰

宅していたのが、調査の準備のた

めであったことを知り、妻の目が
1週間だけ尊敬の眼差しであった
ことを覚えている。

私自身としては、資料調査課の

調査を経験したこともあり、税務

調査に自信を持っており、他の職

員に負けない実績を挙げてきたつ

もりである。



話は脱線するかもしれないが、
脱税とは無縁の皆さんには考え及

ばぬことと思うが、税金を誤魔化

す納税者は不思議とその成果を記

録し残す習性があるようで、いわ

ゆる二重帳簿のような記録を作成

するのである。公に対して不正を

働き、それがバレていないこと

に、内心、相当の優越感や喜びを

感じているのではないかと思う。

つまり、私はこの職場で、不正

を行った証拠書類を数多く見つけ

てきたということである。

長い間、国税の仕事に従事して

いると、申告相談において事実を

話さず申告額を低くしようとする

納税者や税務調査において正しい

金額を把握されないよう証拠書類を破棄したり、隠蔽したりして、負担する税金を少なくしようとする納税者を目にしてきたが、ほんの一握りではあるものの、世の中には納税意識の低い人達がいるものだと感じたものである。

こうした納税意識の低い人達の存在は、生まれ育った環境もあるが、教育の影響も大きいのではないか。子どもの時から連綿とした授業で納税の意味について学習することがなく、結果として、成人しても社会を支える納税者であるという意識が身につけていないのではないかと思う。

何年か税務署の総務課に勤務したことがあり、この時に経験したのが租税教育に関する仕事であった。

租税教育では、教育長をはじめ各学校の校長先生、学年主任の先生、教科の担当の先生方とその重要性を繰り返し議論し、租税教育推進への協力を得た。また、先生方をお願いして、中学生・高校生に対する税金に関する作文の募集を行ったり、さらに授業時間を割いてもらい、自分が企画した小学生・中学生・高校生に対する税金についての授業を自ら行うことも経験した。

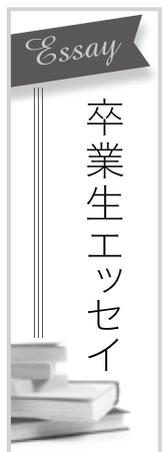
租税教育に関わった経験は、税

務署でこの様な仕事をしているとは思ってもよらず、税務調査で不正を正すのが大事な仕事ではあるものの、違った意味で、職場でやり甲斐のある仕事に従事した時期だったと思っている。

国民に対し均質なサービスを提供する公務員という立場で、また、課税の公平の実現が最重要課題である税務の職場で働く者として、若い頃から、仕事を通じて心に決めていたことは、専門知識のある者や聞きかじりの知識を基に自説を展開する納税者、声高に文句を言い連ね自分の主張を通そうとする納税者に対しては毅然とした態度で対応し、真面目に税金を負担している納税者、特にお年寄りや税についての知識が少ない人達が私の対応で不利益を被ることはないようにと考えてきた。

管理職になってからは、先輩として後輩たちにこの気持ちを理解して欲しいと行動で示し話してきただつもりである。

国税の職場に勤務する時間は残り僅かであるが、私が担当する個人の納税者、特にお年寄りや税についての知識が少ない人達のために、電話相談を通じ、皆さんの役に立てるよう貢献できるように従事していきたいと考えている。



福田尚之公認会計士事務所

所長 福田尚之

(昭和60年卒)

釣りに本格的に興味を持ったのは自分が中学1年の頃少年マガジンで連載が始まった漫画「釣りキチ三平」を読み始めてからでした。釣りキチ三平では最初の頃は鯉やヘラブナ、岩魚の釣りをメインに話を展開しておりましたので、興味を抱いた当時は海釣りよりも川や湖沼での釣りに魅力を感じていました。同じクラスの釣りが好きの友人を師匠と仰ぎ(笑)、毛バリのつくり方を教えてもらったり当時はまだ釣りが禁止されていなかった葛飾区の水元公園に釣りに行ったりしたものでした。水元公園ではタナゴやクチボソしか釣れませんでしたが、横で釣っていた年配の人がヘラブナ等を釣り上げるのを見て「大人ってすごいな」と感心しておりました。当時は子供だったので、腕以上に釣り道具や餌が釣果にかなり影響を与えているところまで思い至りま

せんでした。その後高校、大学と進学する間に野球観戦や格闘技観戦に興味を持ち始め、釣りへの情熱は若干薄れていきました。

興味がなくなったというより、そもそもお金がないので道具にお金をかけられなかったし、また、家族を含め大人で釣り好きな人が周りにいなかったこともあり、大したもの釣れず面白くなかったのだと思います。その後幼少に親や親戚等釣り好きの人が身近にいる人と釣りをする機会がありましたが、勉強に限らず知っている人に教えてもらうということがいかに重要かを認識しました。

その後釣りには1年に1・2回行く程度でそれ程本格的には取り組んではいませんでした。ただ周りに釣り好きであることは公言しておりましたので、誘ってくれる人はおりまして、特に海釣りに行く機会はそれなりに増えていきました。海で釣れる魚は基本的に食



べられるので単純に「同じ魚なら川や湖で食べられない魚を釣るより食べられる魚を釣ったほうがいいかな」と考えるようになりました。30代後半で、公認会計士として上場している事業会社に勤務した経験がありますが、そこに非公式の釣り部が存在しており以前より釣りに行く機会が増えました。

茅ヶ崎でイナダ(ブリの幼魚)を釣ったり、勝浦でイサキを釣ったりしたので、釣りにての魚の味は想像をはるかに超えており、一旦眠りかかっていた釣りへの情熱が再び湧き上がってくるようになりました。外房ではその後天津小湊でアマダイを釣る機会もありました(4匹ぐらい釣って1日だけ利用した釣り船のブログに写真が掲載されておりました笑)。

そして独立開業後40代後半に顧問先の役員の方でたまたま釣り好きの人がいらしてその方と外房の大原によく釣りに行くようになり、真鯛やヒラメ、イサキ、フグといった高級魚の釣りをメインに楽しむようになりまし



た。大原はちょうど親潮(寒流)と黒潮(暖流)が交わるところで豊かな漁場として知られており、真鯛が一年中釣れるようになった一つテンヤ釣り発祥の地でもあります。

当然真鯛釣りにも挑戦しているのですが、初めて大原で真鯛のテナヤ釣りをやったときに40センチ級及び30センチ級の真鯛を一匹ずつ、逃がしてしまいました。5キロを超えていそうな真鯛を一匹掛けたこともあってすっかりテナヤ釣りにはまってしまいました。5キロを超える真鯛の引きは驚くものがあり、今は結構動画で人が大鯛を釣り上げる様子を確認できますが、釣った人と釣れない人の間に存在する壁がいかに厚いものであるかよくわかります。

幸い釣りの腕のほうは回を重ねるごとに着実に上がっているようで、今年の春は70センチを超えるワラサ(ブリの一步手前)と50センチを超えるヒラメを釣り上げることができました。性格上とことん熱中するタイプではないのでマグロやカジキを釣りに海外まで遠征するというところまではいきませんが、通常の釣りであれば外房で十分堪能できます。正月は年末に釣ったフグ(赤目)数匹でフグ鍋も堪能させて頂きました。た

だ、東日本大震災の影響なのかかつてはイサキ釣りの外道でアジが沢山釣れたのですが、震災後はイサキ釣りで外道のアジが全く釣れなくなり、釣り環境も(悪いほうに)段々変わっていつているのかいささか心配でもあります。釣った魚も供養をさせていたただかなければいけないということで、増上寺にあるという魚供養の塔に近いうち行つてこようかと

思っております。外房の釣りに興味のある同窓の方がいらつしやいましたらお声がけいただけると嬉しいですよ。



OB

夢を追って

OB仕事物語り

事務所紹介
街の長老を目指して



本八幡朝陽法律事務所長

弁護士 鴨下智法

(平成9年卒・同24年大学院
専攻法務研究科修了)

平成28年7月に本八幡で事務所を開いたのだから、もう2年になる。これといった強みがある事務所ではないが、唯一、敷居の低い事務所であることだけは内心誇りに思っている。

敷居の低さとは、どんな相談者のどんな心配事でも、とりあえず話を聞くことである。初回無料相談の弊害か、離婚問題や債務整理といった弁護士事務所にはごくありふれた内容から、娘との仲を取り持つてほしいという相談や仕事がないがどうすればよいかという

相談など、おおよそ法律相談とはかけ離れた内容まで事務所に舞い込む。いろいろな相談が舞い込むことはむしろ大歓迎である。私の最終的な野望は何を隠そう本八幡の「長老」になることであるからだ。私の言う「長老」とは、その地域で困りごとがあったときにまず相談される人のことである。それは法律問題に限らず、日常生活のちよつとした困りごとすべてを含む意味で考えている。だからこそ、舞い込む案件は何であろうと私は相談に乗ることにしている。

法律事務所ということを考えれば、書面で話を済ませて、解決にあたっては法律的な説明に終始するビジネスライクな対応を相談者は求めているのかもしれない。だが、大抵はそんなことを忘れ、ついつい腹を割って熱心に話し込んでしまう。相談が終わった後にふと気づく。そう言えば、これは無料相談であったと。

類は友を呼ぶのか、事務所に相談に来る相談者は、どんな内容であれ、お金に困った人が多い。特に多いのが債務整理の相談。やむを得ない理由で借金を背負った人もいれば、正直どうしようもないと思ってしまうような理由で借金を負った人もいる。ギャンブル、

女性関係、親子問題、病気。借金を背負った理由は十人十色だ。相談者のためにしなければならぬことは共通している。弁護士として債務整理をするだけでは解決にはならない。相談者が人生のリスタートを切るところまでサポートするのが真の解決であると思う。

だが、先に述べた通り、借金を背負った理由はさまざま、そして相談者もさまざまだ。真の解決には相手の事情に合わせた対応が当然のことながら求められる。時には相談者に対して厳しい言葉も投げかけねばならない。かつ、それが相談者にとって前を向くための言葉でなくてはならない。そこでは私の弁護士としての能力ではなく、相談に乗る者としての「長老」が問われることとなる。

「長老」を意識し始めたのはい



つからか覚えてはいない。しかし、司法試験に合格したからといって、弁護士として法律的な解決だけをしていこうと思ったことはない。人の困りごとの相談に乗りたいがために弁護士を志したのに、相談事に法律的な解決しか提示できないのでは面白くないと思うからだ。

面白がつて仕事をするという感覚は、私にとつて重要な感覚なのだろう。誰かの困りごとを解決するのが面白いと思うことは、意欲をもって仕事をしているということだ。相手の話を面白がるということとは、興味を持つということだ。意欲と興味を持てば、相手をよく観察し、対話し、考える。

それは相手を理解することにつながると思う。相談者と書面や電話でやり取りをするだけの仕事をしたいは、相手を理解できるはずもない。相談者も自分を理解してくれる人に困りごとを解決してほしいと思うはずだ（これは私の願望かもしれないが）。そして、相手を理解したうえで伝える言葉は、弁護士としての枠を超えた「長老」として相談者への解決の言葉となるはずだ。

このように、現在の私の日常は、弁護士業を片手間に「長老」

の道を究めんとする日々である。

法律事務所としては相談者から「法律の相談料」のみもらっているから、「長老料」についてはただ働きである。お金にならない仕事をするために、抵抗がないわけではない。いち経営者としては失格かもしれない。だが、面白く思つて仕事が出来なくなつてしまつたら、私は長老どころか弁護士として失格なのだろうと思う。『対話の会』の活動は、同会のブログ (<http://taiwanokai.org/blog/>) やホームページ (<http://taiwanokai.org/>) において、詳しく紹介している。ご興味を持たれたら、こちらをご覧くださいただければ幸甚である。



多方面で活躍される卒業生



津口 竜一

(平成14年卒)

大学卒業後は全く疎遠になっていましたが、ふとしたきっかけで同窓生と連絡をとる機会があり、そして今回このような会報に寄稿させていただくことになり、不思議なご縁を感じています。

私は大学在学中の4年間、硬式野球部に所属していました。奇跡的に野球のパフォーマンスが伸び、阪神タイガースのスカウトに声をかけていただけるようになり、また千葉県野球連盟の選抜としてアメリカに遠征させていただく機会がありました。

結局プロ野球に進むことはできませんでしたが、TDK株式会社硬式野球部からスカウトいただ

いて入社、入部することになりました。TDK硬式野球部時代に全日本選抜候補合宿や都市対抗野球全国優勝などの経験をすることができ、その後の人生に大きな影響を受けています。

社会人野球は左膝の靭帯断裂により引退することになりましたが、治療中の車椅子生活の間に自分の次の人生についてゆつくりと考えることができました。そこで一番強く感じたのが、「自分に關わる全ての人がワクワクできるような事業がしたい、何より自分が一番楽しく過ごせるような事業がしたい」という想いです。



◆投資の世界と回回道

社会人野球を引退して3年間はTDK株式会社の東京本社に勤務をしていましたが、先ほどの想いがより強くなり退社することを決

めました。

そして、地元である大阪に帰り、本当にやりたいことを探していたのですがここから少し回回道をすることになります。

先に自由な時間とお金を求めてしまい、投資の世界に身を置きました。投資の世界といっても個人の資産を運用するいわゆるトレーダーです。ただ、2年間真剣に向き合って投資ではある程度の成功を取めることができました。

しかし、ある程度不自由のない生活を得たはずなのに何か物足りない気持ちがありました。今思えば本当に自分が楽しいと思えることではなかったからだと思います。そこで再び自分の気持ちと真剣に向き合うようになります。「お前の本当に楽しいと思えることはなんだ？」

◆ライティングアニメーション

との出会い

その日は突然やってきました。YouTubeで何気なく見ていたアニメーションに強く引き付けられたのです。アニメーションが終わり思わず魅入られていたことに気付くと同時に「このアニメーションを作りたい！」という感情が湧きおこりました。半年ほどかけてそのアニメー

ションの作成方法や技術などを学ぶうちにこのアニメーションが日本ではあまり知られていないものだということが判明しました。

海外ではホワイトボードアニメーションと呼ばれるもので、まさに今文字やイラストを描いているかのようなアニメーションです。(ぜひ一度QRコードにある私の自己紹介アニメーションをご覧ください。)



それをさらに進化させ、ライティングアニメーションという名前をつけました。このアニメーションには通常の動画よりも「思わず見てしまう」「長時間記憶に残りやすい」「最後まで見てしまう」など多くの効果が期待できます。

自分が感じたワクワクする気持ちをこのアニメーションを使って同じように多くの人にワクワクしてもらいたい、日本でこのアニメーションを広めたいと思ひ事業にすることを決めました。

◆ワクワクする毎日

そこからライティングアニメーションを使ったアイデアや商品を開発して、様々なジャンルの企業や個人へアプローチしていくのですが、みなさんにとっても好評いただいています。なによりも制作後



元団体職員

佐藤 一成

(昭和55年卒)

に自分が初めて見た時のようなワクワク感を持っていただけるととても幸せな気持ちになります。制作する自分達、注文していただくクライアント様、そのアニメーションを見る視聴者、この事業に関わる全ての人が笑顔になる、まさに車椅子生活の時に描いた姿です。

今現在多岐に渡る活動で多くのジャンルの方々とお仕事させていただいていますが、いつも新しい刺激をいただいで、制作のアイデアから完成まで常にワクワクする毎日を送っています。

売上のない日々でも仲間でああでもないこうでもないという議論をするのもとても楽しかったですし、売上が出だしてからはさらに世界が広がりました。

◆目標に向かって

私が事業を進めるにあたって貢献したい二つの分野があります。それが「教育界」「野球界」です。ライティングアニメーション事業で、この二つの分野へ向けたアイデアも次々と浮かんできていますので、まずは目標達成に向けて進んでいきます。

そして、日本全国で私のライティングアニメーションを見て笑顔になれる人がたくさん増えるように頑張りたいと思います。

三年前にリタイヤしました佐藤と申します。

新卒で就職したのは「株式会社日本リサーチセンター」でした。

入社してから気付いたのですが、何故か同窓の先輩が多く在籍しておりまして、時として同窓会のようなことも多々ありました。多分に「頭の体操」で有名な多湖輝先生が会社の創立に関与していたからかと思われまます。

結局二十一年間在籍することになりましたが、後半の平成7年からは農水省所管の「財団法人ふるさと情報センター」へ出向することになりました。最初は二年間の期間限定のはずでしたが、なぜかそのまま居ついてしまいました。

余談ですが、平成7年はあの地下鉄サリン事件の年でして、事件当日は、出向準備で自宅におりました。当時の会社は八丁堀にありましたので、いつものように出勤

していたらどうなっていたかと、今でも不思議に感じるがあります。

満60歳を目前にした秋半ばですが、突然夕刻になると眼が霞むようになり、時々足元が覚束ないことが起こり始めました。

40歳過ぎから既に二十年近く、年二回定期的に眼科に通っていましたが、想定外の出来事でしたので、まあ歳も歳だし、年末に向かう慌ただしさもあり、さして日常生活に不都合はないので、そのまま次回明けの検診を迎えることになりました。視野検査後に医師に「時々霞むことがあります」と言いましたところ、即強く手術を勧められました。2月中旬だったと思います。

ところが、即手術となっても順番待ちでして、実際に入院・手術は三ヶ月後でした。症名：緑内障、気が付かないうちに視野が欠けていく怖い病です。もう点眼薬だけでは進行を止められないと診断されました。そして、両眼の手術が終了したのが6月中旬でした。

医師からは二ヶ月ほどで視力が安定すると言われましたが、実際に元に戻るまでは本当に不安な日々の連続でした。歩行者用信号がないと、怖くて道路の横断がで

きないので。

手術に加えて、田舎で施設に入所している母親がおりますので、思い切ってリタイヤすることに。当然ながら配偶者(人文学部心理卒)からの強い反対の声が予想されましたが、彼女も介護問題では同様の立場にあり、説得可能かなと?

満61歳を迎えた年末に退職の辞令をいただきました。細々とした年金生活を送っております。幸いなことに、同期の長屋君に勧められた年金保険が満期を迎えていたので、何とか生活が成り立っているように感じています。残念な事に彼は若くして亡くなつてしまひ、御礼を言うことは叶いません。

ようやく多少なりとも時間的な余裕ができてきますと、今の生活は多くの方々にお世話になつてきた賜物であることに改めて気付かされます。ふとした瞬間に同窓の方々について「今何している?」との疑問が湧いてきますが、皆様の動静につきましては、同窓会報やホームページ、Facebookグループなどに頼るしかありません。

現在、約14,000名の会員を擁するまでになったとのことで、今後は会員間の情報交流の機会をより増やす方向でご検討いただければと願う次第です。

同窓会総会

平成30年度同窓会総会を下記のとおり開催致します。
会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

日時 **平成30年11月11日(日)**

総会 11:30～
懇親会 12:30～

会場 **けやき会館1階「レストラン コルサ」**

懇親会参加費 **5,000円** ※当日会場でお支払いください。



お手数ですが準備の都合上、同窓会総会及び懇親会の出席・欠席について、Fax又はEメールにて11月7日(水)までに、同窓会事務局宛にご連絡いただくようお願い申し上げます。

なお、当日の参加も歓迎致します。その際には、名札用の名刺を1枚ご持参ください。また、住所等の変更のあった方は、併せてご連絡をお願い致します。

FAX番号 020-4624-1924 (ご氏名・卒業年度を入れてお願い致します。)

Eメール info@culpe-ob.com (件名は『同窓会』でお願い致します。)

同窓会サイトを修正・追加しました

是非一度覗いてみてください。

1. メールマガジン

不定期にメールマガジンを発行します。

①購読する方は、「8.各種申込・問い合わせフォーム」から登録をお願いします。

②内容は

- (1) 同窓の年次毎、ゼミ毎の集まりの案内
- (2) 同窓主催のライブ、行事
- (3) 文科省主導での国立大学改革の記事・リンクの紹介
- (4) その他、同窓からのリクエストがあった内容

2. SNS集

同窓がアカウントを持っているSNS集。

メニュー「10. 同窓のSNSアカウント・会社サイト等」

→同窓のSNSアカウント

掲載依頼は、「8.各種申込・問い合わせフォーム」から登録をお願いします。

3. 同窓の会社の会社案内(ホームページ)、Facebookページ

メニュー「10. 同窓のSNSアカウント・会社サイト等」

→同窓の会社のサイト

掲載依頼は、「8.各種申込・問い合わせフォーム」から登録をお願いします。

4. 大学・同窓会関連SNS・ホームページ

メニュー「10. 同窓のSNSアカウント・会社サイト等」

→大学・同窓会関連SNS・ホームページ

同窓会への お便り・情報 を募集

皆様の近況報告、誌面への掲載希望や紹介、クラス会・OB会の報告など何でも結構です。お気軽に同窓会事務局までお寄せください。

千葉大学法政経学部同窓会事務局

FAX 043-221-7048

Eメール info@culpe-ob.com

昨年年度開催を見送りました同窓会総会が今年11月に開催されることになり、それに伴いまして会報も無事発行することができました。お忙しい中寄稿頂きました皆様ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

会報中にもあります通り、法政経学部同窓会は大学との共同管理体制から同窓会単独の管理運営となりました。卒業後も千葉大学で学んだ絆を保ち、卒業生同志の輪を繋げていこうとする活動の維持継続のためにも、より一層のご支援ご協力いただけますようお願いいたします。(編集委員)

編集後記